

解説書

リズム・マスターのための  
演奏能力開発エクササイズ2

採譜・解説 / ラリー・フィン

リットーミュージック



## 目次

はじめに	5
各パートについて	6

## PART 1

### Hand Technique ●ハンド・テクニク

#### exercise 1 ..... 8

- a : mixed stickings 1 (duplets) ●ミックス・スティッキング1(デュプレッツ)
- b : mixed stickings 2 (duplets) ●ミックス・スティッキング2(デュプレッツ)
- c : mixed stickings 1 (triplets) ●ミックス・スティッキング1(トリプレッツ)
- d : mixed stickings 2 (triplets) ●ミックス・スティッキング2(トリプレッツ)

#### exercise 2 ..... 10

- a : flam paradiddles ●フラム・パラディドル
- b : pata fla flas ●パタ・フラ・フラ
- c : flam drags ●フラム・ドラッグ
- d : flam paradiddle-diddles ●フラム・パラディドル・ディドル
- e : flamed five-stroke roll ●フラムド・ファイヴ・ストローク・ロール
- f : "cheese its" (drum corps style) ●チーズ・イツ(ドラム・コー・スタイル)

#### exercise 3 ..... 14

- a : orchestral piece in 4/4 time ●オーケストラ・ピース4/4拍子
- b : orchestral piece in 3/4 time ●オーケストラ・ピース3/4拍子

#### exercise 4 ..... 18

- a : rudimental street beat ●ルーディメンタル・ストリート・ビート
- b : rudimental piece 5/4 time ●ルーディメンタル・ピース5/4拍子

## PART 2

### Funk/Rock Independence and Grooves ●ファンク/ロック インディペンデンス&グルーヴ

#### exercise 5 ..... 22

- a : independence example 1 ●インディペンデンス・エクササイズ1
- b : independence example 2 ●インディペンデンス・エクササイズ2
- c : independence example 3 ●インディペンデンス・エクササイズ3
- d : independence example 4 ●インディペンデンス・エクササイズ4
- e : independence example 5 ●インディペンデンス・エクササイズ5
- f : independence example 6 ●インディペンデンス・エクササイズ6
- g : independence example 7 ●インディペンデンス・エクササイズ7
- h : independence example 8 ●インディペンデンス・エクササイズ8

#### exercise 6 ..... 24

- a : funk beat (Clyde Stubblefield style) ●クライド・スタブルフィールド風ファンク・ビート
- b : funk beat incorporating floor tom ●フロア・タムを組み込んだファンク・ビート

#### exercise 7 ..... 25

- a : funk open hi-hat beat ●オープン・ハイハット・ファンク・ビート
- b : funky "off beat"/open hi-hat beat ●オフ・ビート・オープン・ハイハット・ファンク・ビート

#### exercise 8 ..... 26

- a : "cymbal & hi-hat" ride funk/rock beat ●"シンバル&ハイハット"ライド・ファンク/ロック・ビート
- b : open hi-hat/moving right hand ride beat ●オープン・ハイハット・ムービング・ライト・ハンド・ライド・ビート

#### exercise 9 ..... 28

- a : syncopated rock/funk with hi-hat openings 1 ●オープン・ハイハットを交えたシンコペート・ロック/ファンク1
- b : syncopated rock/funk with hi-hat openings 2 ●オープン・ハイハットを交えたシンコペート・ロック/ファンク2

#### exercise 10 ..... 29

- a : "anticipated" beat incorporating hi-hat foot ●フット・ハイハットを組み込んだ"アンティシペート"ビート
- b : linear technique beat funk/rock ●リニア・テクニク・ファンク/ロック・ビート

#### exercise 11 ..... 31

- a : beat incorporating 32nd notes 1 ●32分音符を組み込んだビート1
- b : beat incorporating 32nd notes 2 ●32分音符を組み込んだビート2

## PART 3

### Shuffle Independence and Grooves ●シャッフル インディペンデンス&グルーヴ

#### exercise 12 ..... 33

- a : independence example 1 ●インディペンデンス・エクササイズ1
- b : independence example 2 ●インディペンデンス・エクササイズ2
- c : independence example 3 ●インディペンデンス・エクササイズ3
- d : independence example 4 ●インディペンデンス・エクササイズ4
- e : independence example 5 ●インディペンデンス・エクササイズ5
- f : independence example 6 ●インディペンデンス・エクササイズ6
- g : independence example 7 ●インディペンデンス・エクササイズ7
- h : independence example 8 ●インディペンデンス・エクササイズ8

#### exercise 13 ..... 35

- a : "drag on snare" ghost note shuffle ●"ドラッグ・オン・スネア"ゴースト・ノート・シャッフル
- b : legato shuffle (back beat on "4") ●レガート・シャッフル(4拍目バック・ビート)
- c : syncopated hi-hat opening shuffle ●シンコペート・オープン・ハイハット・シャッフル
- d : "off beat" ride shuffle ●"オフ・ビート"ライド・シャッフル
- e : hi-hat foot splash shuffle ●フット・スプラッシュ・シャッフル
- f : "push-up" shuffle ●"プッシュ・アップ"シャッフル
- g : extra ghost note shuffle ●エクストラ・ゴースト・ノート・シャッフル
- h : anticipate with hi-hat shuffle ●ハイハットを使った"アンティシペート"シャッフル
- i : off beat/hi-hat foot splash shuffle ●オフ・ビート・フット・スプラッシュ・シャッフル
- j : quarter note triplet shuffle ●4分音符トリプレット・シャッフル

#### exercise 14 ..... 40

- a : advanced "very busy" shuffle 1 ●アドヴァンスド"ベリー・ビジイ"シャッフル1
- b : advanced "very busy" shuffle 2 ●アドヴァンスド"ベリー・ビジイ"シャッフル2

## PART 4

### Jazz / Latin Independence and Grooves

#### ●ジャズ/ラテン インディペンデンス&グルーヴ

#### exercise 15 ..... 42

- a : jazz independence combination 1 (BD/SD/HH) ●ジャズ・インディペンデンス・コンビネーション1(バス・ドラム/スネア/ハイハット)
- b : jazz independence combination 2 (BD/SD/HH) ●ジャズ・インディペンデンス・コンビネーション2(バス・ドラム/スネア/ハイハット)
- c : jazz independence combination 3 (BD/SD/HH) ●ジャズ・インディペンデンス・コンビネーション3(バス・ドラム/スネア/ハイハット)
- d : jazz independence combination 4 (BD/SD/HH) ●ジャズ・インディペンデンス・コンビネーション4(バス・ドラム/スネア/ハイハット)
- e : jazz independence combination 5 (BD/SD/HH) ●ジャズ・インディペンデンス・コンビネーション5(バス・ドラム/スネア/ハイハット)
- f : jazz independence combination 6 (BD/SD/HH) ●ジャズ・インディペンデンス・コンビネーション6(バス・ドラム/スネア/ハイハット)
- g : jazz independence combination 7 (BD/SD/HH) ●ジャズ・インディペンデンス・コンビネーション7(バス・ドラム/スネア/ハイハット)

#### exercise 16 ..... 44

- a : typical samba pattern 1 (Brazilian) ●典型的サンバ・パターン1(ブラジル)
- b : typical samba pattern 2 (Brazilian) ●典型的サンバ・パターン2(ブラジル)
- c : samba with typical ride pattern ●ライドを使った典型的サンバ・パターン

- d : funky style samba ●ファンキー・サンバ
- e : baião groove (Brazilian) ●バイオン・グルーヴ(ブラジル)

## exercise 17 .....47

- a : gua-guanco (Afro-Cuban) ●ワワンコー(アフロ・キューバン)
- b : funky gua-guanco ●ファンキー・ワワンコー
- c : conga beat (Afro-Cuban) ●コンガ・ビート(アフロ・キューバン)
- d : funk/rock conga beat ●ファンク・ロック・コンガ・ビート

## exercise 18 .....48

- a : soca beat (carypso from Trinidad) ●ソカ・ビート(カリプソ・フロム・トリニダード)
- b : jazz/blues "flat tire" shuffle ●ジャズ/ブルース"フラット・タイヤ"シャッフル
- c : second line funk (New Orleans) ●セカンド・ライン・ファンク(ニューオーリンズ)
- d : Reggae Beat (Jamaica) ●レゲエ・ビート(ジャマイカ)

## PART 5

### Chart Reading ●チャート・リーディング(読譜)

## exercise 19 .....51

- a : jazz ensemble figure ex. 1 "and of four" ●ジャズ・アンサンブル 音型1 "4拍ウラ"
- b : jazz ensemble figure ex. 2 "and of three" ●ジャズ・アンサンブル 音型2 "3拍ウラ"
- c : jazz ensemble figure ex. 3 "and of two" ●ジャズ・アンサンブル 音型3 "2拍ウラ"
- d : jazz ensemble figure ex. 4 "and of one" ●ジャズ・アンサンブル 音型4 "1拍ウラ"

## exercise 20 .....54

- a : funk ensemble figure example 1 ●ファンク・アンサンブル 音型1
- b : funk ensemble figure example 2 ●ファンク・アンサンブル 音型2
- c : funk ensemble figure example 3 ●ファンク・アンサンブル 音型3
- d : funk ensemble figure example 4 ●ファンク・アンサンブル 音型4
- e : funk ensemble figure example 5 ●ファンク・アンサンブル 音型5

## exercise 21 .....57

- a : 8-bar funk example 1 ●8小節ファンク・エクササイズ1
- b : 8-bar funk example 2 ●8小節ファンク・エクササイズ2
- c : 8-bar shuffle example ●8小節シャッフル・エクササイズ
- d : 8-bar funk ballad example ●8小節ファンク・バラード・エクササイズ
- e : 8-bar funk shuffle or hip-hop example ●8小節ファンク・シャッフルまたはヒップホップ・エクササイズ
- f : 12-bar swing shuffle example ●12小節スウィング・シャッフル・エクササイズ

## PART 6

### Fill and Solo Development ●フィルイン&ソロ ディベロップメント

## exercise 22 .....63

- a : triplet example 1+2 (funk/rock beat) ●トリプレット・エクササイズ1+2(ファンク/ロック・ビート)
- b : triplet example 3+4 (funk/rock beat) ●トリプレット・エクササイズ3+4(ファンク/ロック・ビート)
- c : triplet example 5+6 (swing beat) ●トリプレット・エクササイズ5+6(スウィング・ビート)
- d : triplet example 7+8 (hip-hop beat) ●トリプレット・エクササイズ7+8(ヒップホップ・ビート)

## exercise 23 .....66

- a : 16th and 32nd note example 1 (SD/FT/BD) ●16&32分音符エクササイズ1(スネア/フロア・タム/バス・ドラム)
- b : 16th and 32nd note example 2 (SD/TT/FT/BD) ●16&32分音符エクササイズ2(スネア・ドラム/タムタム/フロア・タム/バス・ドラム)
- c : 16th and 32nd note example 3 (CYM + BD together) ●16&32分音符エクササイズ3(シンバル+バス・ドラム)
- d : extended 16th and 32nd note example ●16&32分音符エクササイズ4(エクステンド)

デモ演奏について .....69

おわりに .....70

譜面の見方 .....71

プロフィール .....71

## はじめに

このビデオの主な目的は、確実な成果をあげるべく、極めて実用的なエクササイズを使って、皆さんがいろいろなスタイルのドラミングを学ぶ手助けをすることにあります。ドラマーにはありがちなことですが、我々はあまり必要でもないテクニックをマスターすることに固執してしまったり、速いテンポで叩くことや変拍子に多くの時間を費やしたりしがちです。したがってこのビデオではそのようなことがないように、様々なハンド・テクニックや譜面の読み方を始め、ドラム・コーディネーションのための実用的な練習方法をセクションごとに取り上げていきます。各セクションのエクササイズは、基本的なものから高度なものまで含まれています。じっくりと時間をかけてあきらめずに、そして楽しみながら練習してください。



## 各パートについて

### PART1

#### Hand Technique ハンド・テクニク

このセクションではハンド・テクニクに焦点をあてます。すべてのテクニクにおいて、自分の手や腕を鍛え、自由にコントロールできるようにすることは最も重要なことです。ここでのエクササイズを行う前に、すべてのルーディメントに一度目を通し、できれば実際に練習してみてください。ルーディメントは常に練習すべきものですが、特にこのセクションのエクササイズの中には高度なものもあり、ルーディメントに目を通してから行うべきものも含まれています。ここでは具体的にスティッキング、フラム・ルーディメント、オーケストラ・ピース、そして難しいドラム・コー・スタイルによるストリート・ビートなどが取り上げられています。

### PART2

#### Funk/Rock Independence and Grooves ファンク／ロック インディペンデンス&グルーヴ

このセクションでは、ファンクとロックに関するドラム・コーディネーションとグルーヴを扱います。前半は一般的なファンクやロックでよく使われるフット・パターンを練習します。これらのエクササイズによって、実際に多くの場で頻繁に使われる典型的なパターンを十分にマスターします。後半はそれぞれが個々に異なるファンクやロックのグルーヴを紹介し、それぞれが音楽的にもテクニク的にも実にユニークなものになっています。

### PART3

#### Shuffle Independence and Grooves シャッフル インディペンデンス&グルーヴ

このセクションでは、多くのドラマーが苦手としているシャッフルに焦点をあてます。シャッフルが難しい理由のひとつは、それがトリプレット(3連譜)から成り立っているということにあります。多くの人にとってトリプレットは、8ビート、16ビートそして32ビートよりも、難しいものであると言えます。ですから時間をかけて練習し、シャッフル曲を収録した多くのアルバムを聴いて参考にしてください。それによってフィーリングをつかむことができます。

### PART4

#### Jazz / Latin Independence and Grooves ジャズ／ラテン インディペンデンス&グルーヴ

このセクションでは、ジャズにみられる基本的なフレージングや、ラテン音楽のグルーヴに焦点をあてます。ジャズ・インディペンデンスの部分で取り上げられているパターンは極めて典型的なものなので、よく耳にするかと思います。ですからここはしっかりとマスターしてください。それによってより高度なフレーズやパターンに進むことができます。後半ではサンバやアフロ・キューバンなどのグルーヴを扱っています。これらを知っているということは非常に重要です。

### PART5

#### Chart Reading チャート・リーディング(読譜)

このセクションでは、チャート・リーディング(読譜)に力を入れます。チャート・リーディングは、楽曲のフォームに関する知識を含む読解力や記憶力といったことがらにも関連してきます。ここでは特に譜面を読みとることと覚えることに焦点をあててエクササイズを進めていきます。まずは、アンサンブルにおけるリズム・アクセント、いわゆる“アンサンブル・キック”の典型的なものをいくつか取り上げます。それを何回も繰り返し練習し、覚えてください。ここでのエクササイズはあまり数多くはありませんが、これ以外のものでも読譜力を養う努力をしてください。それによって典型的な譜面の形態を演奏することに慣れ、譜面を見ただけですぐに演奏できるようになります。

### PART6

#### Fill and Solo Development フィルイン&ソロ ディベロップメント

ここでは多くのドラマーが興味を持っているフィルインとソロ・フレーズについて取り上げます。問題は、曲の感じやタッチ、サウンドを理解することよりも、フィルインやソロに関心を寄せすぎてしまうことです。そこでこのパートでは、フィルインとソロ・フレーズに対して適切な方法でアプローチしていきます。我々はよく、フレーズがどのような音楽的状況にフィットするかを考えることなく、ただひとつのテンポとダイナミクスでフレーズを学びがちです。音楽には取り扱わなければならない様々な問題がありますが、ここではドラマーとしての見地からフレーズを取り上げ、アイデアを生み出すことに焦点を当てます。具体的には典型的なトリプレット(3連譜)やデュプレット(2連符)のスティッキング・パターンをドラム・セットに応用し、一定のグルーヴの中で演奏していきます。テンポやダイナミクスを変えながら練習を進めていけば、より音楽的で適切な方法でこれらのパターンを自分のものにしていくことができるはずです。



# exercise 1

## a : mixed stickings 1 (duplets)

●ミックス・スティッキング1(デュプレッツ)

## b : mixed stickings 2 (duplets)

●ミックス・スティッキング2(デュプレッツ)

主な目的●典型的なミックス・スティッキングの数々を自在にプレイできるようにします。これによってコントロールが付き、スティッキングを次から次へと変えていくことがスムーズにできるようになります。

∞ 練習方法●メトロノームを使って最初はゆっくりとしたテンポで練習します(4拍子のテンポ=60)。慣れてきたらテンポを徐々に速めていきましょう。また、各テンポではダイナミクスを変えて演奏してみましょう。コントロールが付くようになります。

ポイント●リラックスして演奏しましょう。叩く際、スティックは打面に対して自然に下ろします。肩と腕がリラックスしているかを確認しましょう。

## c : mixed stickings 1 (triplets)

●ミックス・スティッキング1(トリプレッツ)

## d : mixed stickings 2 (triplets)

●ミックス・スティッキング2(トリプレッツ)

主な目的●トリプレット・パターンの組み合わせを演奏する際のコントロールを高めます。

練習方法●exercise1a,bと同様です(4拍子のテンポ=88)。

ポイント●トリプレットのフレーズに慣れ、滑らかに演奏できるように何回も練習しましょう。

6

1a  
 R L R R L R L L R L L R L R R L  
 R L L R L R R L R R L R L L R L

1b  
 R L L R L L R L R R L R L R L L  
 R R L R L R L L R L R L R R L L

1c  
 R L L R R L R L R R L L  
 R L L R L R R L L R R L

1d  
 R R L R L L R L R L R L  
 R L R L R R L R R L R L

## exercise 2

### a : flam paradiddles

●フラム・パラディドル

主な目的●フラム・パラディドルを学び、しっかりと演奏できるようにします。

練習方法●最初はゆっくりとしたテンポで練習します(4拍子のテンポ=40)。慣れてきたらテンポを徐々に104まで速めていきましょう。

ポイント●フラムにおけるグレース・ノートは、スティックの振りを打面近く低目に保ちます。振りを高くするとコントロールが付きにくくなります。

### b : pata fla flas

●パタ・フラ・フラ

主な目的●「パタ・フラ・フラ」として知られるスイス・ルーディメントを使ってコントロールを高めます。

練習方法●exercise2aと同様です。

ポイント●exercise2aと同様です。

### c : flam drags

●フラム・ドラッグ

主な目的●「フラム・ドラッグ」として知られるスイス・ルーディメントを使ってコントロールを高めます。

練習方法●最初はゆっくりとしたテンポで、フラム打ち(グレース・ノート)なしで練習してみましょう。その後フラム打ちを加えます。グレース・ノートはスティックの振りを打面近く低目に保ちます。

ポイント●フレーズが滑らかにレガートになっているかを確認し、機械的な感じにならないように注意しましょう。

2a

RLRR LRL L

2b

RLR L RLR L

3 3

2c

RLLR LRR L

6 6

2d

RLRRL LRLLR

## exercise 2

### d : flam paradiddle-diddles

●フラム・パラディドル・ディドル

主な目的●「フラム・パラディドル・ディドル」として知られるルーディメントを使ってコントロールを高めます。

練習方法●最初はゆっくりとしたテンポで練習します(4拍子のテンポ=80)。慣れてきたらテンポを徐々に120まで速めていきましょう。また、各テンポではダイナミクスを変えて演奏してみましょう。

ポイント●グレース・ノートはスティックの振りを低くして演奏しましょう。これは非常にフィジカルな要素の強いルーディメントなので、テンポを速め過ぎないように注意しましょう。

### e : flamed five-stroke roll

●フラムド・ファイヴ・ストローク・ロール

主な目的●「フラムド・ファイヴ・ストローク・ロール」として知られるスイス・ルーディメントを使ってコントロールを高めます。

練習方法●最初は4拍子のテンポを40で始めます。慣れてきたらテンポを徐々に92まで速めていきましょう。また、各テンポではダイナミクスを変えて演奏してみましょう。

ポイント●スタッカートになり過ぎないように注意しましょう。通常のファイヴ・ストローク・ロールをプレイしているぐらいまで慣れるようにしてください。

### f : "cheese its" (drum corps style)

●チーズ・イツ(ドラム・コー・スタイル)

主な目的●「チーズ・イツ」として知られるドラム・コー・スタイルのルーディメントを使ってコントロールを高めます。

練習方法●最初は4分音符のテンポを60で始めます。慣れてきたらテンポを徐々に144まで速めていきましょう。また、各テンポではダイナミクスを変えて演奏してみましょう。

ポイント●グレース・ノートはスティックの振りを低くして演奏しましょう。テンポを速くしても、何のルーディメントなのかわかるように注意してください。

2e

3 3

RRLLR LLRRL

2f

RRL LLR



# exercise 3

a : orchestral piece in 4/4 time

●オーケストラ・ピース4/4拍子

主な目的●4/4拍子のオーケストラ・ピースでのスネアに関するエクササイズを紹介します。

練習方法●最初はゆっくりとしたテンポで練習します。正確にリズムを刻めるようになってきたらダイナミクスを付け、滑らかなフレージングを心がけてください。間違えても演奏を止めないで最後まで通して演奏するようにしましょう。

ポイント●バス・ロールはできるだけスムーズに演奏できるようにしましょう。またダイナミクスを出すことも心掛けてください(ソフトな演奏をする際には打面の周辺をプレイしてみてください)。

14

3a  $\text{♩} = 112$

*mf* *p*

5 *p*

9 *f* *pp* *f* *pp* *f* *p* *p*

13 *cresc. poco a poco* *f* *pp* *ff*

15

# exercise 3

b : orchestral piece in 3/4 time

●オーケストラ・ピース3/4拍子

主な目的●3/4拍子のオーケストラ・ピースに取り組みます。

練習方法●最初はダイナミクスを付けないで練習してみましょう。ダイナミクスを付けたらフレージングにも気を付けましょう。間違えても止めないで最後まで通して練習してください。

ポイント●3/4拍子の感覚をつかんでください。叩く打面の位置を変えてダイナミクスを付けてみてください。

16

♩ = 88-92

3b

*mf*

5

*pp*

9

*f*

13

*dim. poco a poco* ----- *pp*

17

# exercise 4

## a : rudimental street beat

●ルーディメンタル・ストリート・ビート

主な目的 ●4/4拍子のルーディメント・スタイルでのストリート・ビートを発展させます。

練習方法 ●最初はゆっくりとしたテンポで始めます(4分音符のテンポ=60)。全体を演奏できるようになるまでは、1小節ごとに分けて練習し、それができたら2小節ごとに練習してみましょう。ダイナミクスレベルを変えながら演奏してみましょう。

ポイント ●グレース・ノートはスティックの振りを低くして演奏しましょう。できるだけ力を抜いて演奏しましょう。高度なルーディメントなので時間をかけて練習してください。

18

4a ♩ = 92

R RLRLR RLRLRLLR LRRLRRL

R LLRLRLRLRL L R LRL RRLLR L RRLLR L R RLRL

R L R RLRL R L LR RRLLRRRLLLR R

RLRLRLRLRLRL RLRLRLRLRLRL RLRLRLRLRLRL RLRLRLRLRLRL

19



# exercise 4

## b : rudimental piece 5/4 time

●ルーディメンタル・ピース5/4拍子

主な目的 ● 5/4拍子のルーディメント・スタイルを発展させます。

練習方法 ● 4分音符のテンポは120で始めます。全体を通して演奏できるようになるまでは、2小節ごとに区切って練習すると良いでしょう。ダイナミクスレベルを変えて演奏してみましょう。後半のスティッキングに関しては、ビデオをチェックしてください。

ポイント ● 8分音符はスイング感を出してください。スタッカートになり過ぎて不自然なサウンドにならないようにしましょう。

20

4b  $\text{♩} = 190$  *mf*  $R L L R L R L L R L R$   $R L L R R L R L R$   $R L L R R L R L R$

4  $R L R R L R L L R L R R L$   $R L L R L R L L R L R$

7  $R L R R L L R L R R L L R L R R L R L L$   $R L R L R L R$   $R L R L$

21

## exercise 5

**a : independence example 1**

●インディペンデンス・エクササイズ1

**b : independence example 2**

●インディペンデンス・エクササイズ2

**c : independence example 3**

●インディペンデンス・エクササイズ3

**d : independence example 4**

●インディペンデンス・エクササイズ4

**e : independence example 5**

●インディペンデンス・エクササイズ5

**f : independence example 6**

●インディペンデンス・エクササイズ6

**g : independence example 7**

●インディペンデンス・エクササイズ7

**h : independence example 8**

●インディペンデンス・エクササイズ8

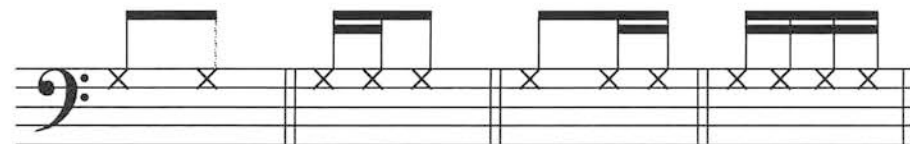
主な目的●ファンクやロックにおける典型的なパターンをマスターします。

練習方法●いずれのエクササイズも4分音符のテンポは60で始めます。慣れてきたらテンポを変えたりダイナミクスを変えて演奏してみましょう。様々なハイハットやシンバルのオスティナート(反復パターン)を作って、それぞれのエクササイズを練習してみましょう。それに

よって自分なりのオスティナートが確立されてくるはずです。

ポイント●エクササイズを演奏できたからといってグルーブ感をつかんだとは言えません。テンポやダイナミクスを変えながら何回も練習して、確実に自分のものにしてください。

### 5a-d H.H. Patterns



#### 5a

♩=80



#### 5b

♩=80



#### 5c

♩=80



#### 5d

♩=92



#### 5e

♩=92



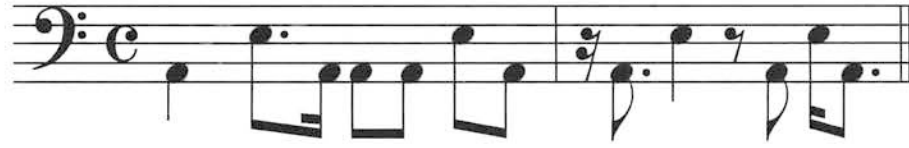
#### 5f

♩=70



#### 5g

♩=88

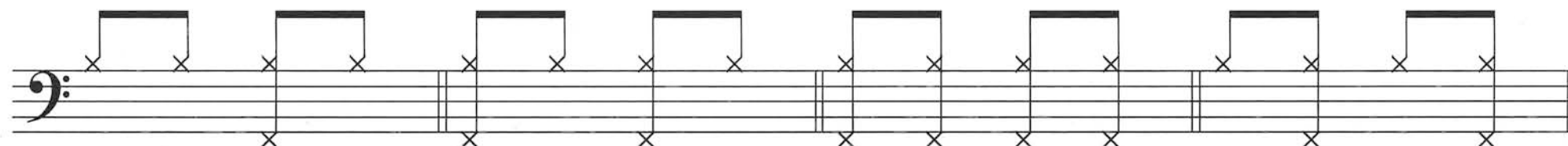


#### 5h

♩=100



### 5e-h H.H. / Ride Patterns



## exercise 6

### a : funk beat (Clyde Stubblefield style)

- クライド・スタブルフィールド風ファンク・ビート

主な目的●スネア・ドラムでのゴースト・ノートを使ったファンク・ビートに取り組みます。

練習方法●最初はゆっくりとしたテンポで練習し、テンポを徐々に速めていきましょう。ハイハットをスネアに比べてソフトにしたり、スネアとハイハットをソフトにしてバス・ドラムをラウドにしてみたりと、自分なりに変化を付けて演奏してみてください。そうすることによってグルーブの中でのダイナミクスを身に付けることができます。

ポイント●スネア・ドラムは手をリラックスさせて叩きましょう。ソフトな音とアクセントになる音を叩く際に、体に力が入りがちになるので注意してください。

### b : funk beat incorporating floor tom

- フロア・タムを組み込んだファンク・ビート

主な目的●ファンクやロックのビートで使われるオープン・ハイハットとフロア・タムとのコンビネーションの中で、ハイハットのオルタネート・スティッキングを学びます。

練習方法●exercise6aと同様です。

- 16ビートのオルタネート・スティッキングをドラム・パッドで練習することも、スムーズで均一なサウンド作りに役立ちます。ドラム・セットがなくてもグルーブを出す練習法はたくさんあります。

ポイント●ハイハットのパートをスムーズに演奏できるようにしましょう。必要のないアクセントは付けないように。特にオープン・ハイハットとフロア・タムとのコンビネーションの時は、4拍目でグルーブのバランスを保ってください。

## exercise 7

### a : funk open hi-hat beat

- オープン・ハイハット・ファンク・ビート

主な目的●4拍目ウラのオープン・ハイハットによって、よりリニアな動きのグルーブを生み出します。

練習方法●exercise6aと同様です。

- このエクササイズは高度なので、簡単なオープン・ハイハットの練習をしてから取りかかると良いでしょう。

ポイント●音と音との間のスペースが均一になっているか確認してください。このようなパターンは途中で速くなったり遅くなったりしがちですので注意しましょう。4拍ウラのバランスが取れているかにも注意してください。

### b : funky "off beat"/open hi-hat beat

- オフ・ビート・オープン・ハイハット・ファンク・ビート

主な目的●オープン・ハイハットと2拍ウラのスネアのオフ・ビートによるファンク・ビートに取り組みます。

練習方法●exercise6aと同様です。

- ジェームス・ブラウンのレコードを聴き、ここでのグルーブのような少しモタリ気味のバック・ビートによるグルーブを聴き取ってみましょう。

ポイント●1拍目のオープン・ハイハットはハシらずにプレイしましょう。ありがちなことなので気を付けてください。



# exercise 8

## a : "cymbal & hi-hat" ride funk/rock beat

● “シンバル&ハイハット”ライド・ファンク/ロック・ビート

主な目的 ● フット・ハイハットと左手によるハイハット・コンビネーション、およびスモール・タムを使ったファンク・ビートのエクササイズに取り組みます。

練習方法 ● exercise 6aと同様です。

● 練習する前に、このエクササイズで動かす方向へ腕をストレッチしましょう。ウォーム・アップすることで演奏の際、腕を柔軟に動かすことができます。

ポイント ● 椅子には楽に腰掛け、座った時に体のバランスが取れているようにします。このようなグローヴではハイハットの足の動きが大切なので、演奏している時の体のバランスには常に注意してください。

## b : open hi-hat/moving right hand ride beat

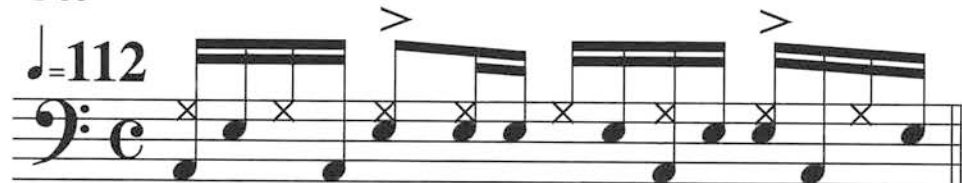
● オープン・ハイハット・ムービング・ライト・ハンド・ライド・ビート

主な目的 ● 引き続きファンク・ビートのエクササイズです。1拍目の難しいオープン・ハイハット、3拍目と4拍目のシンバルとフロア・タムによって、リニアな動きのアプローチを行う高度なファンク・ビートに取り組みます。

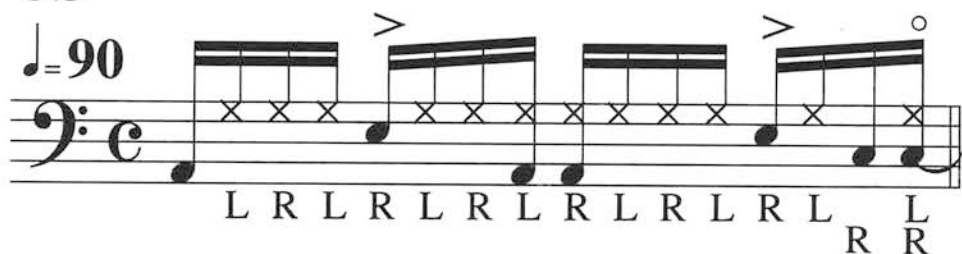
練習方法 ● exercise 6aと同様です。

ポイント ● 体のバランスには注意してください。全体をプレイする前に、1拍目だけをゆっくりのテンポで練習してみましょう。

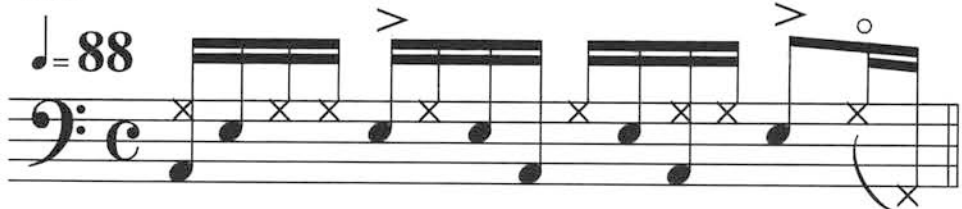
### 6a



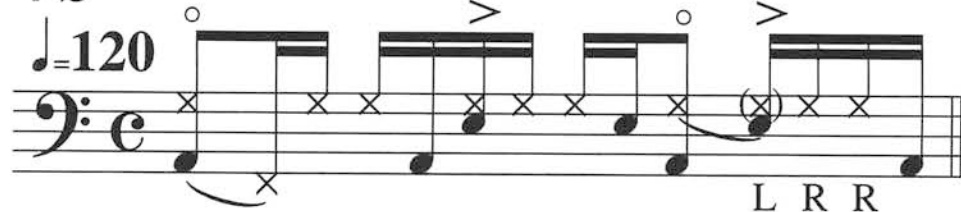
### 6b



### 7a



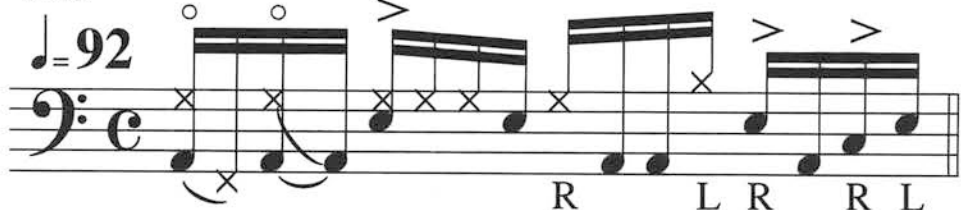
### 7b



### 8a



### 8b



## exercise 9

### a : syncopated rock/funk with hi-hat openings 1

- オープン・ハイハットを交えたシンコペート・ロック/ファンク  
1

主な目的 ● オープン・ハイハットでビートを“くって”アクセントをずらすファンクやロックのビートに取り組みます。

練習方法 ● exercise6aと同様です。

- 2拍目の16分ウラと3拍目のウラのオープン・ハイハットをバス・ドラムと共にプレイして、グルーブを出す練習をしてください。こうした“アンティシペーション”と呼ばれるビートの“くい”またはアクセントの“ずらし”がリラックスしてうまくできるようになります。

ポイント ● オープン・ハイハットによるビートの“くい”またはアクセントの“ずらし”を、ハシらずに演奏しましょう。このようなグルーブではありがちなことです。

### b : syncopated rock/funk with hi-hat openings 2

- オープン・ハイハットを交えたシンコペート・ロック/ファンク  
2

主な目的 ● 16分音符のオープン・ハイハットを交えたシンプルなファンク・ビートに取り組みます。

練習方法 ● exercise6aと同様です。

- 16分音符のオープン・ハイハットのみを繰り返し1小節演奏し、1小節休んでまた1小節演奏するという反復練習をしてみてください。

ポイント ● 16分音符のオープン・ハイハットを演奏している時でも、体の動きやバランスは変わらないようにしましょう。そうでないとビートが一定でなくなり、演奏が台無しになってしまいます。

## exercise 10

### a : "anticipated" beat incorporating hi-hat foot

- フット・ハイハットを組み込んだ“アンティシペート”ビート

主な目的 ● 1小節目の4拍目16分ウラにオープン・ハイハットを加え、ビートを“くって”アクセントの位置をずらす“アンティシペート”ビートのエクササイズに取り組みます。同時にフット・ハイハットの練習にもなります。

練習方法 ● exercise6aと同様です。

- こうしたビートの“くい”またはアクセントの“ずらし”をうまく演奏するために、メトロノームを使って8分ウラや16分ウラの“アンティシペート”ビートを手で叩いてみましょう。

ポイント ● 1小節目の4拍目16分ウラをハシらずに演奏しましょう。全体を通して演奏する前に、2小節目の3拍目と4拍目の部分のみを練習するのも良いでしょう。

### b : linear technique beat funk/rock

- リニア・テクニク・ファンク/ロック・ビート

主な目的 ● さらに高度な、リニアな動きのファンク・ビートのエクササイズに取り組みます。

練習方法 ● exercise6aと同様です。

- パラディドルを左右の手順を変えて練習してみましょう。それによってグルーブが確実なものになります。

ポイント ● 滑らかに演奏できることが重要です。とくにハイハットとスネアには注意しましょう。からだはリラックスさせてプレイしましょう。

9a  $\text{♩} = 100$

9b  $\text{♩} = 100$

10a  $\text{♩} = 88$

10b  $\text{♩} = 104$

R L R L R L R L R L

## exercise 11

### a : beat incorporating 32nd notes 1

- 32分音符を組み込んだビート1

主な目的 ● 32分音符を組み込んだファンク/ロック・ビートに取り組みます。

練習方法 ● exercise6aと同様です。

- 1拍目のパターンをきちんとプレイできるようにするために、パラディドルを左右の手順を変えて(右左左右、左右右左)練習してみましょう。

- 37 ポイント ● このようなアクセントを付けたグルーヴを演奏するのは、しっかりとしたハンド・テクニックが必要になってきます。そのためにはルーディメントを毎日練習するようにしましょう。

### b : beat incorporating 32nd notes 2

- 32分音符を組み込んだビート2

主な目的 ● さらに高度な32分音符を組み込んだファンク/ロック・ビートに取り組みます。

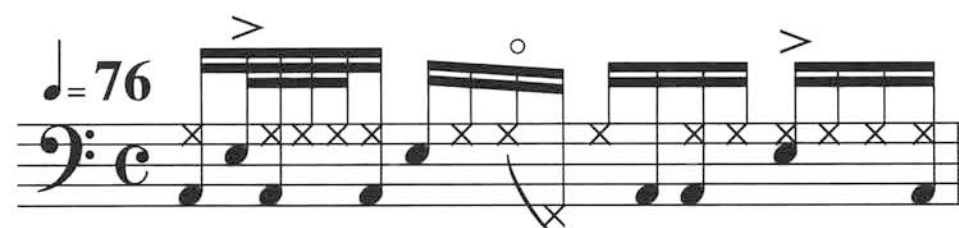
練習方法 ● exercise6aと同様です。

- パラディドル・ディドルを練習しましょう。2拍目に出てくる32分音符の大部分がこれにあたります。

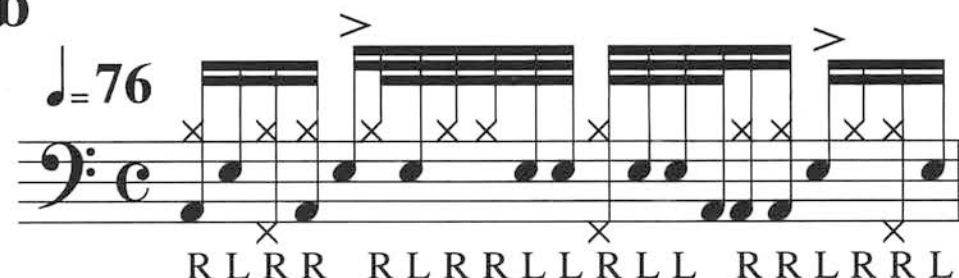
- ポイント ● フット・ハイハットを演奏している時の体のバランスに注意しましょう。またハンド・テクニックが確実であることが、このようなグルーヴをうまくプレイする最大のポイントです。



### 11a



### 11b



## exercise 12

- a : independence example 1  
●インディペンデンス・エクササイズ1

---

- b : independence example 2  
●インディペンデンス・エクササイズ2

---

- c : independence example 3  
●インディペンデンス・エクササイズ3

---

- d : independence example 4  
●インディペンデンス・エクササイズ4

---

- e : independence example 5  
●インディペンデンス・エクササイズ5

---

- f : independence example 6  
●インディペンデンス・エクササイズ6

---

- g : independence example 7  
●インディペンデンス・エクササイズ7

---

- h : independence example 8  
●インディペンデンス・エクササイズ8

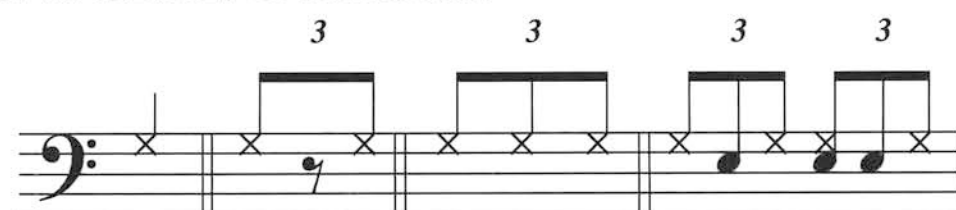
主な目的●ハイハットによる典型的なライド・オスティナートを加えた、シャッフルのバス・ドラム・パターンの基本的な感覚をしっかりとつかみます。

練習方法●いずれのエクササイズも最初はゆっくりとしたテンポで練習します(4分音符のテンポ=80)。慣れてきたら徐々にテンポやダイナミクスを変えてみましょう。自分なりに各パターンを分解して練習すると、演奏

もしっかりとしたものになります。例えば右手とバス・ドラムだけを取り上げて、それらがお互いにどのように関連しているのかを理解しながら練習を進めてみるのも良いでしょう。またリズムを手で叩いてみたり、バス・ドラムやスネアのパートを口ずさんでフレーズを感じ取っていきましょう。

ポイント●時間をかけて練習してください。カウントを数えながら練習しても良いでしょう。パターンが叩けたからといってグルーブ感のある演奏になっているとは限りません。サウンド的にもフィーリング的にもシャッフルに対して自信が付きまで頑張ってください。しっかりと叩けるようになって初めて、グルーブを生み出すスタート台に立てるのです。

### 12a-h H.H. Patterns



12a  $\text{♩} = 96$

12b  $\text{♩} = 80-132$

12c  $\text{♩} = 80-132$

12d  $\text{♩} = 88$

12e  $\text{♩} = 88$

12f  $\text{♩} = 104$

12g  $\text{♩} = 112$

12h  $\text{♩} = 96$

## exercise 13

### a : "drag on snare" ghost note shuffle

- "ドラッグ・オン・スネア" ゴースト・ノート・シャッフル

主な目的 ● 1拍目のトリプレット2番目の音にオープン・ハイハットとスネアのドラッグを取り入れたシャッフルに取り組みます。

練習方法 ● 最初はゆっくりとしたテンポで練習します。パターンを各パートに分解して練習し、そのグルーブにおける各パートの役割を理解しましょう。例えば最初は手のパターンのみ、次に左手と足のパターンと一緒に、というように練習してみると良いでしょう。そうすることでグルーブ感をより早く養うことができます。

- フラム・ドラッグを練習しましょう。それによって1拍目がきちんと演奏できるようになります。

ポイント ● シャッフルについてもハンド・テクニクが非常に重要です。フラム・アクセント、フラム・ドラッグ、パラディドル・ディドルなどのルーディメントの練習は、いろいろなシャッフルをマスターするのに役立ちます。

### b : legato shuffle (back beat on "4")

- レガート・シャッフル(4拍目バック・ビート)

主な目的 ● ハーフ・クローズのハイハットを取り入れたシャッフルに取り組みます。

練習方法 ● exercise 13aと同様です。

- 1拍目にオープン・ハイハットを入れて、2拍目でクローズさせる練習をしましょう。滑らかに一定に演奏できるようにしましょう。

ポイント ● 1拍目と3拍目が、2拍目と4拍目に比べてオープンで引き伸ばした感じになっていますが、テンポは正確に、音と音とのスペースはきちんと取ってください。

## exercise 13

### c : syncopated hi-hat opening shuffle

- シンコペート・オープン・ハイハット・シャッフル

主な目的●高度なオープン・ハイハットが入ったシャッフルに取り組みます。

練習方法●exercise13aと同様です。

ポイント●ここでは左右の足のコンビネーションに集中してください。

### d : "off beat" ride shuffle

- “オフ・ビート”ライド・シャッフル

主な目的●ちょっと変わったシンバルのライド・パターンが入ったブルース・スタイルのシャッフルに取り組みます。

練習方法●exercise13aと同様です。

- シンバルのパターンは口ずさみながら練習してみると良いでしょう。また、全体を通して演奏する前に、右手と左手とのコンビネーションをしっかりと練習しましょう。

ポイント●このようなシャッフルは、曲の一部またはフィルインで使用すると効果的です。繰り返し演奏すると、サ

### f : "push-up" shuffle

- “プッシュ・アップ”シャッフル

主な目的●ダウンビート(各拍のトリプレット1つ目の音)でオープン・ハイハット、各拍のトリプレット3つ目の音でクローズさせるシャッフルに取り組みます。

練習方法●exercise13aと同様です。

- ここではハイハットを重点的に練習してください。滑らかに演奏ができるようにしましょう。

ポイント●このようなグルーブはハシりがちです。そうならないように注意し、ゆっくりと練習してみましょう。

### g : extra ghost note shuffle

- エクストラ・ゴースト・ノート・シャッフル

主な目的●ゴースト・ノートを使用したスネアの音数の多いシャッフルに取り組みます。

練習方法●exercise13aと同様です。

- バス・ドラムとスネアとのコンビネーションを確実にしてください。

ポイント●やはりハンド・テクニクがしっかりとしていること

ウンド的にはすっきりしなくなってしまいます。

### e : hi-hat foot splash shuffle

- フット・スプラッシュ・シャッフル

主な目的●2拍目と4拍目にハイハットのフット・スプラッシュを加えたシャッフルに取り組みます。

練習方法●exercise13aと同様です。

- フット・ハイハットのテクニクは時間をかけて練習してください。1拍目と3拍目にハイハットのクローズが入り、2拍目と4拍目にスプラッシュが入ります。両足がうまく動かせるようになってから全体を通して演奏しましょう。

ポイント●体のバランスに注意してください。椅子の中心に腰掛けて、スプラッシュのときでもハイハットの方に体の重心が傾かないようにしましょう。

がポイントです。2拍目と4拍目に出てくるスネアによるトリプレットの練習と同様に、スイス・ロール(右右右、左左左)も練習すると良いでしょう。

### h : anticipate with hi-hat shuffle

- ハイハットを使った“アンティシペート”シャッフル

主な目的●連続したハイハット・オープンのあるシャッフルに取り組みます。

練習方法●exercise13aと同様です。

- 慣れるまでは左右の足を分けて練習すると良いでしょう。

ポイント●2拍目のトリプレット3つ目の音がハシらないようにしましょう。



# exercise 13

## i : off beat/hi-hat foot splash shuffle

● オフ・ビート・フット・スプラッシュ・シャッフル

主な目的 ● 高度なハイハットのフット・スプラッシュを加えたシャッフルに取り組みます。

練習方法 ● exercise13aと同様です。

● 1拍目と3拍目でハイハットをクローズ、2拍目と4拍目でオープンというように、足のテクニックが要求されます。左右の足のコンビネーションに慣れてから全体を通して演奏してみましょう。

ポイント ● ここでも体のバランスには気を付けましょう。体の重心が椅子の上にあるようにしてください。

## j : quarter note triplet shuffle

● 4分音符トリプレット・シャッフル

主な目的 ● 音数の多いバス・ドラムと、ライド・シンバルによる4分音符のトリプレット・パターンが入ったシャッフルに取り組みます。

練習方法 ● exercise13aと同様です。

● 最初はライド・シンバルとバス・ドラムのパターンとを分けて練習しましょう。

ポイント ● このようなグルーブを多用すると、大抵の場合は慌ただしい感じになってしまうので、使うタイミングには気を付けましょう。

### 13a

### 13b

### 13c

### 13d

### 13e

### 13f

### 13g

### 13h

### 13i

### 13j



## exercise 14

### a : advanced "very busy" shuffle 1

#### ●アドヴァンスド“ベリー・ビジー”シャッフル1

主な目的●16分音符のトリプレット(または6連譜)をシャッフルに組み入れてみます。

練習方法●最初はゆっくりとしたテンポで練習します。1拍ごとに分けて練習してから全体を通してみましょう。パラディドル、ダブル・パラディドル、パラディドル・ディドルを練習して、このシャッフル・パターンをマスターしましょう。

ポイント●このパターンは練習用ですので、曲の中では頻繁には使えません。こういった音楽的な状況でこのシャッフルを使えば効果的なのかを判断する必要があります。

### b : advanced "very busy" shuffle 2

#### ●アドヴァンスド“ベリー・ビジー”シャッフル2

主な目的●16分音符のトリプレット(または6連譜)とオープン・ハイハットを、シャッフルに当てはめてみます。

練習方法●ゆっくりと、そしてじっくりと取り組みましょう。1拍ごとに分けて練習してから全体を通してみましょう。

これまでのシャッフルのエクササイズにおける<練習方法>を活用してください。このエクササイズは、これまでに取り上げたたくさんのテクニックに関連しています。

ポイント●このようなグルーヴを実際に使うときは、慎重に場を選んでください。

### 14a

Musical notation for exercise 14a, bass clef, common time (C), tempo 90. The notation shows a sequence of sixteenth notes with triplets and sixteenth notes. The rhythm is indicated by the letters R L L R R L L R L L R L R L. The first four groups are marked with a '6' above them, and the last group is marked with a '3' above it. There are accents (>) over the first and last notes of the first two groups, and a circled note in the third group.

### 14b

Musical notation for exercise 14b, bass clef, common time (C), tempo 106. The notation shows a sequence of sixteenth notes with triplets and sixteenth notes. The rhythm is indicated by the letters R L L R L. The first group is marked with a '6' above it, and the last two groups are marked with a '3' above them. There are accents (>) over the first and last notes of the first and last groups, and a circled note in the second group.

# exercise 15

**a : jazz independence combination 1 (BD/SD/HH)**

●ジャズ・インディペンデンス・コンビネーション1(バス・ドラム/スネア/ハイハット)

**b : jazz independence combination 2 (BD/SD/HH)**

●ジャズ・インディペンデンス・コンビネーション2(バス・ドラム/スネア/ハイハット)

**c : jazz independence combination 3 (BD/SD/HH)**

●ジャズ・インディペンデンス・コンビネーション3(バス・ドラム/スネア/ハイハット)

**d : jazz independence combination 4 (BD/SD/HH)**

●ジャズ・インディペンデンス・コンビネーション4(バス・ドラム/スネア/ハイハット)

**e : jazz independence combination 5 (BD/SD/HH)**

●ジャズ・インディペンデンス・コンビネーション5(バス・ドラム/スネア/ハイハット)

**f : jazz independence combination 6 (BD/SD/HH)**

●ジャズ・インディペンデンス・コンビネーション6(バス・ドラム/スネア/ハイハット)

**g : jazz independence combination 7 (BD/SD/HH)**

●ジャズ・インディペンデンス・コンビネーション7(バス・ドラム/スネア/ハイハット)

主な目的●スネアとバス・ドラムによる典型的なトリプレット・パターンを發展させ、ジャズのライド・シンバル・パターンと共にフット・ハイハットを演奏するエクササイズです。

イズです。ジャズには最適のエクササイズですが、様々な音楽におけるボキャブラリーを増やすのにも役立ちます。

練習方法●辛抱強く演奏することが鍵になります。最初はスネアとバス・ドラムだけというように、2つのパートに絞って練習してみると良いでしょう。慣れてきたらすべてのパートを一緒に演奏しましょう。ドラマーの中にはグルーブがどう構成されているかを考えないで演奏している人を良く見かけます。しかし、右手と左手との関連性を理解しなければ、全体のグルーブ感を出すことはできません。慣れてくるまでは、ジャズのライド・パターンをスネアなどのひとつのパートだけと組み合わせて練習しましょう。最後にすべてのパートを一緒にゆっくりと演奏し、テンポを徐々に速めていきましょう。

ポイント●体の重心は椅子の上に置きましょう。ライド・パターンは滑らかでなければいけません。いずれのエクササイズでも、どこかの音が飛び出したり強調されたりすることがないように、あくまでもコードを演奏しているかのように気を付けてください。

## Ride Patterns 15a-g

## 15d

## 15e

## 15f

## 15g

## exercise 16

### a : typical samba pattern 1 (Brazilian)

#### ●典型的サンバ・パターン1(ブラジル)

主な目的●バス・ドラム、スネアそれにフット・ハイハットを使って典型的なサンバのグルーブを發展させます。

練習方法●最初はゆっくりとしたテンポで練習します(4分音符のテンポ=70)。スネアと共にバス・ドラムのパターンをしっかりと演奏しましょう。慣れてきたらテンポやダイナミクスを変えてください。サンバの曲が出てきたら、このパターンを使って何回も練習してみてください。

ポイント●他のパートに比べてスネアの音量が大きくなりすぎないようにしましょう。グルーブ感が出せるようになるまでは、すぐにインプロヴィゼーションをしないようにしましょう。他の音楽でも言えることですが、こうした音楽スタイルでは十分な積み重ねと音楽的な演奏が要求されます。

44

### c : samba with typical ride pattern

#### ●ライドを使った典型的サンバ・パターン

主な目的●典型的なライド・シンバル・パターンを使ってサンバを發展させます。

練習方法●exercise16aと同様です。

ポイント●このようなシンバルのパターンは音量が大きくなり過ぎないようにしましょう。シンバルを叩くときのストロークを低く、コンパクトに保ちましょう。

### d : funky style samba

#### ●ファンキー・サンバ

主な目的●ライド・パターンの一部としてシンバル、ハイハット、スモール・タムとフロア・タムを使ってサンバを發展させます。

練習方法●exercise16aと同様です。

ポイント●体全体の動きがスムーズでバランスが保たれていることが重要です。それによってグルーブ感も出てきますし、良いサウンドも得られます。

45

### b : typical samba pattern 2 (Brazilian)

#### ●典型的サンバ・パターン2(ブラジル)

主な目的●exercise16a同様、バス・ドラム、スネアそれにフット・ハイハットを使って典型的なサンバのグルーブを發展させます。

練習方法●アプローチとしてはexercise16aと変わりません。ただし、スティッキングとアクセントに違いがあります。

ポイント●前のエクササイズとはアクセントが違います。多くの音楽と同様にブラジル音楽にも典型的なリズムがたくさんあります。中でもexercise16aとexercise16bは、最も典型的なものと言えるでしょう。

### e : baião groove (Brazilian)

#### ●バイオン・グルーブ(ブラジル)

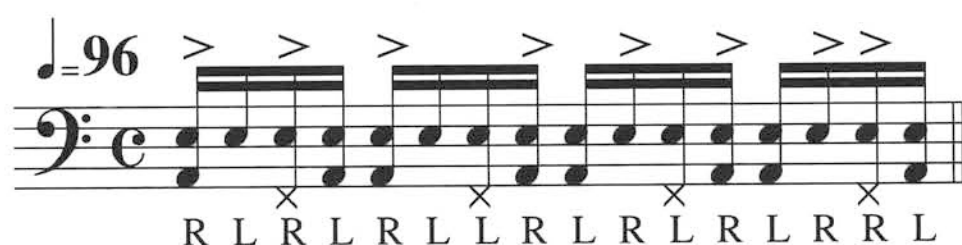
主な目的●バイオンと呼ばれるブラジル音楽のグルーブを發展させます。

練習方法●サンバと同様、スネアと共にバス・ドラムのパターンをしっかりと演奏しましょう。最初はゆっくりとしたテンポで練習します(4分音符のテンポ=70)。慣れてきたら徐々にテンポを速めていきましょう。このリズム・パターンには、exercise16aとexercise16bのスネア・パターンが応用できます。多くのサンバとバイオンとは、ブラジル音楽ということでパターンを共有することができます。

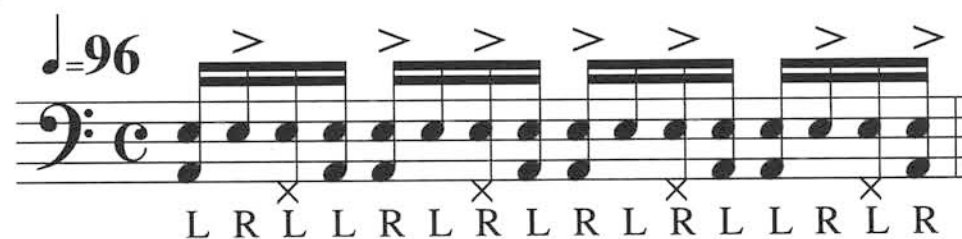
ポイント●このリズム・パターンは、すべてのパターンにはなんらかの共通性があることを示しています。例えばソングはニューオリンズのセカンド・ライン・ドラミングとの共通性があります。他のパターンにも言えることですが、特にこのリズム・パターンに関しては、よく音楽を聴いてユニークでスタイリッシュなフレージングを理解することが大切です。



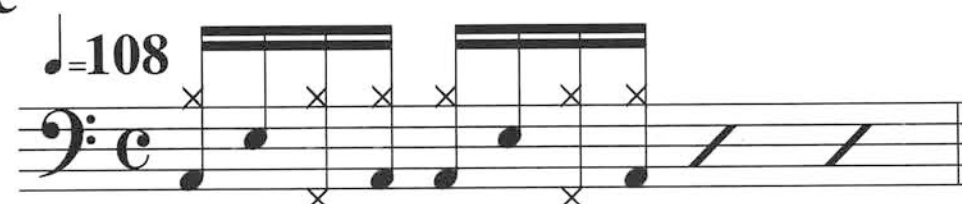
## 16a



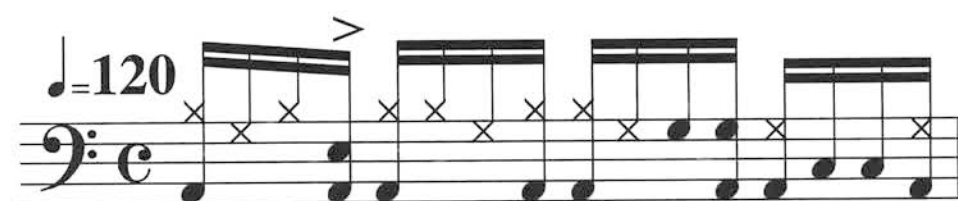
## 16b



## 16c



## 16d



## 16e



## exercise 17

a : gua-guanco (Afro-Cuban)

●ワワンコー(アフロ・キューバン)

b : funky gua-guanco

●ファンキー・ワワンコー

主な目的●「ワワンコー」と呼ばれるアフロ・キューバンのグルーヴを発展させます。aではより正統的なものを、bではよりファンキーなものを取り上げます。

練習方法●最初はゆっくりと練習し、手足の動きがどのように関係しているのかを理解していきます。a、bのどちらにも慣れてきたら、aを4小節演奏し、その後bを4小節演奏してみましょう。次に8小節ずつ、16小節ずつというように演奏してみましょう。

ポイント●こうしたリズムを始め、できる限り多くの音楽スタイルを学びましょう。それをbのように自分なりのファンキー・ヴァージョンに作り上げてみたり、自分自身を表現するためにどんどん活用してみましょう。

c : conga beat (Afro-Cuban)

●コンガ・ビート(アフロ・キューバン)

d : funk/rock conga beat

●ファンク・ロック・コンガ・ビート

主な目的●「コンガ」と呼ばれるアフロ・キューバンのリズム・パターンを発展させます。cではより正統的なものを、dではよりファンキーなものを取り上げます。

練習方法●exercise17a/17bと同様です。

ポイント●exercise17a/17bと同様です。



## exercise 18

### a : soca beat (carypso from Trinidad)

●ソカ・ビート(カリプソ・フロム・トリニダード)

主な目的●「カリプソ」として知られるカリブ音楽のソカのグルーヴを発展させます。

練習方法●最初はゆっくりとしたテンポで練習します(4分音符のテンポ=60)。左右の手の動きがどのように関連しているかに注意してください。それらがしっかりと演奏できるようになれば、足を加えることは容易なはずです。

ポイント●バス・ドラムの4分音符が非常に重要です。しっかりと、力強くキックするようにしましょう。

48

### c : second line funk (New Orleans)

●セカンド・ライン・ファンク(ニューオーリンズ)

主な目的●ニューオーリンズの「セカンド・ライン」として知られるファンク・グルーヴを発展させます。

練習方法●最初はゆっくりとしたテンポで練習します(4分音符のテンポ=70)。スネアと共にバス・ドラムのパターンをしっかりと演奏しましょう。慣れてきたら徐々にテンポやダイナミクスを変えて練習してみましょう。そしてフット・ハイハットによるウラの拍を入れてみます。それによってフレーズが理解でき、この音楽の特長をつかむことができます。

ポイント●このスタイルの音楽で有名なのは、ザ・ミーターズ、プロフェッサー・ロングヘア、ドクター・ジョン、ダーティー・ダズン・ブラス・バンドなどです。

49

### b : jazz/blues "flat tire" shuffle

●ジャズ/ブルース「フラット・タイヤ」シャッフル

主な目的●「フラット・タイヤ・シャッフル」と呼ばれるブルースのシャッフルを発展させます。

練習方法●最初はゆっくり練習することが大切です。その後テンポやダイナミクスを変えていきます。それができたらブルースのアルバムを選び、フィーリングをつかむまで何回もこのパターンをアルバムに合わせて演奏してみましょう。

ポイント●ダイナミクスによっても変わりますが、このパターンはジャズやブルース、ロックに活用することができます。とくにブルースではスネアをしっかりと力強く叩くことが必要です。各拍のトリプレット3つ目の音をアクセントとして、オフ・ビートまたはアフター・ビートの感覚を出すことが重要です。

### d : Reggae Beat (Jamaica)

●レゲエ・ビート(ジャマイカ)

主な目的●ジャマイカの典型的なグルーヴ「レゲエ」を学びます。

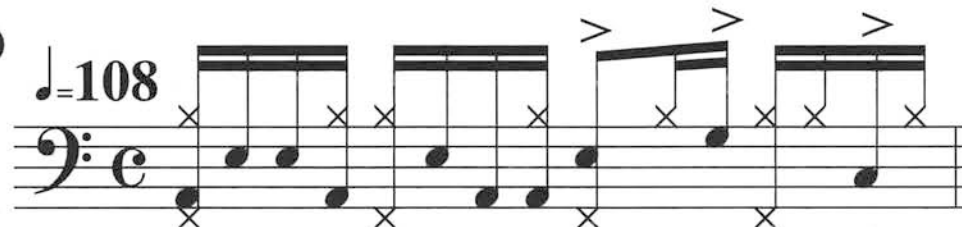
練習方法●他のエクササイズの<練習方法>を参考にしてください。フィーリングをつかむために、たくさんのレゲエ・ミュージックを聴くと良いでしょう。

ポイント●ボブ・マーリー、ジミー・クリフ、スライ&ロビー、UB40などの有名なレゲエ・ミュージックを聴きましょう。

## 17a



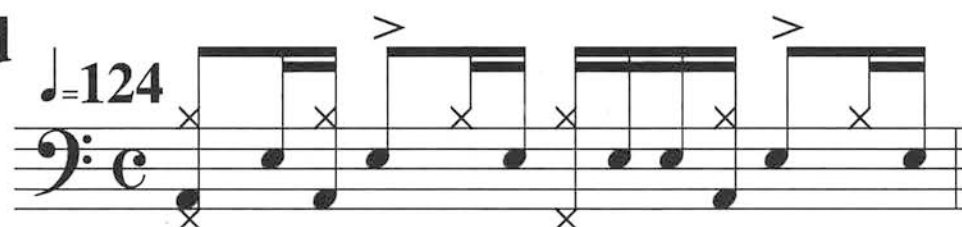
## 17b



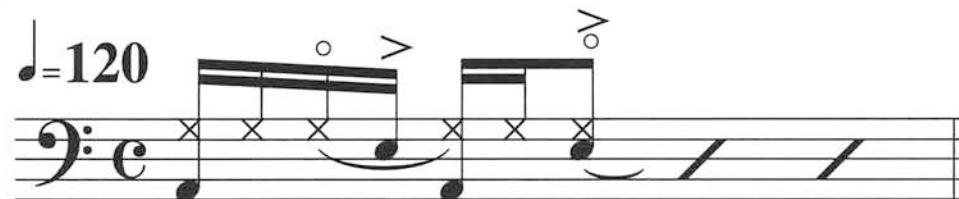
## 17c



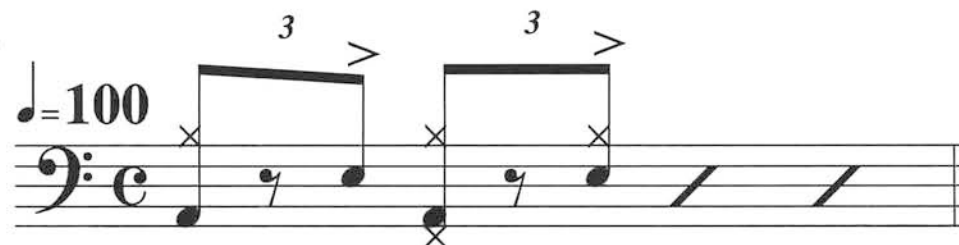
## 17d



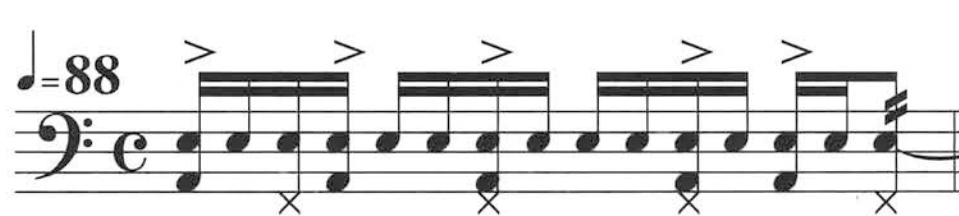
## 18a



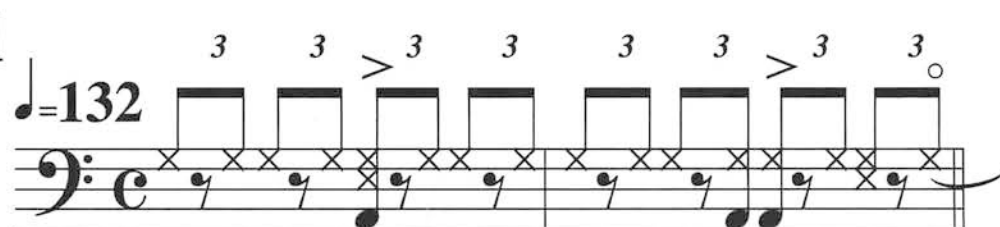
## 18b



## 18c



## 18d



## exercise 19

### a : jazz ensemble figure ex. 1 "and of four"

●ジャズ・アンサンブル 音型1“4拍ウラ”

主な目的●スウィング・スタイルで、4拍目のウラに“アンサンブル・キック”を入れたエクササイズに取り組みます。

練習方法●2拍目と4拍目で手を叩き、“アンサンブル・キック”の部分をお手ずさんでみましょう。それによって、小節やリズム・パターンの中のどこにアクセントがあるのかが理解できます。次にカウントを取りながら、シンバルとバス・ドラムとを一緒に“アンサンブル・キック”の部分のみを演奏します。これによって、さらにこのリズム・パターンを身に付けることができるようになるでしょう。最後は、“アンサンブル・キック”の直前に“セットアップ”と呼ばれる導入部的なピックアップ・フレーズを加えてみます。何回も練習することによって体がパターンを覚えていきます。

ポイント●目的は良いフィーリングでプレイができ、様々なアンサンブルの音型を演奏できることです。フレーズの前に“セットアップ”フレーズを入れることは可能ですが、それだけに終始してしまうとフィーリングを失い、“アンサンブル・キック”をミスしがちです。それでは意味がありません。実際に私はそうした生徒

を何人も見えています。あくまでも「音楽」を中心に考えてください。

### b : jazz ensemble figure ex. 2 "and of three"

●ジャズ・アンサンブル音型2“3拍ウラ”

主な目的●スウィング・スタイルで、3拍目のウラに“アンサンブル・キック”を入れたエクササイズに取り組みます。

練習方法●exercise19aと同様です。

ポイント●3拍ウラの“アンサンブル・キック”は多くのドラマーにとって難しいものです。なぜなら、2拍目や4拍目のウラの“アンサンブル・キック”のように自然に感じられないからだだと思います。そのためにグルーブ感が失われ、“アンサンブル・キック”がハシったりモタったりしてしまいます。ビデオでのデモンストレーションをよく参考にしてください。

## exercise 19

### c : jazz ensemble figure ex. 3 "and of two"

●ジャズ・アンサンブル 音型3“2拍ウラ”

主な目的●スウィング・スタイルで、2拍目のウラに“アンサンブル・キック”を入れたエクササイズに取り組みます。

練習方法●exercise19aと同様です。

ポイント●“アンサンブル・キック”を付けた演奏では、“セットアップ”フレーズも含めて体のポジションを一定に保つよう気を付けてください。私の生徒の多くも、体の重心がずれてしまって無理な演奏をしがちです。ドラム・セットの一方側だけを演奏したかと思えば、反対側だけでフィルインを叩いたり、スティッキングも変になってしまっているのです。リラックスして音楽的な演奏を心掛け、あくまでも自然な体の動きの中で演奏してください。優れたプレイヤーの演奏を見れば、そのことが理解できると思います。

### d : jazz ensemble figure ex. 4 "and of one"

●ジャズ・アンサンブル 音型4“1拍ウラ”

主な目的●スウィング・スタイルで、1拍目のウラに“アンサンブル・キック”を入れたエクササイズに取り組みます。

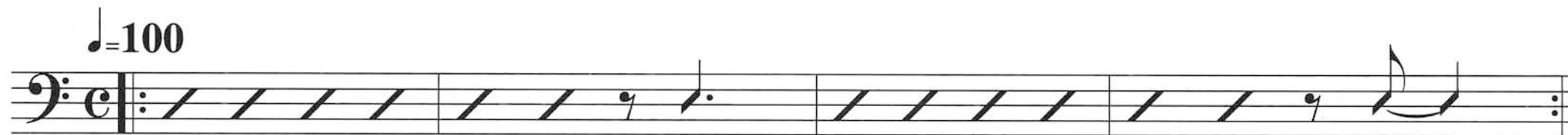
練習方法●exercise19aと同様です。

ポイント●これは3拍目のウラに“アンサンブル・キック”を入れたexercise19bと非常に似ていますし、同じ点に注意を払ってください。exercise19の4つのエクササイズは、どれも体が覚えるまで何回も練習してください。

19a



19b



19c



19d





a : funk ensemble figure example 1

●ファンク・アンサンブル 音型1

主な目的●典型的なファンクの“アンサンブル・キック”に取り組みます。2小節単位のリズム・パターンで、1小節目の3拍目(付点8分)とその16分ウラ、そして4拍目のウラにアクセントが付きます。

練習方法●最初はゆっくりとしたテンポで練習します。メトロノームを使いながら“アンサンブル・キック”の部分を口ずさんでください。次にリズム・パターンを叩きつつ、“アンサンブル・キック”を口ずさんだり、バス・ドラムのみで演奏してみましょう。慣れてきたら簡単な“セットアップ”フレーズを“アンサンブル・キック”の前に入れてみましょう。

ポイント●“アンサンブル・キック”がきちんと演奏できなければ、その前の“セットアップ”フレーズはうまく演奏できません。多くのドラマーは“セットアップ”自体をひとつの独立したフレーズやパターンとして考えていますが、“セットアップ”はあくまでも“セットアップ”、つまり導入部なのです。ですからアンサンブルの音型をきちんと演奏できなければ、どのような導入部が演奏できても意味がありません。

54

c : funk ensemble figure example 3

●ファンク・アンサンブル 音型3

主な目的●exercise20aと同様です。2小節単位のリズム・パターンで、最初の小節4拍目の2つの16分ウラと、2小節目の4拍ウラにアクセントが付きます。

練習方法●exercise20aと同様です。

ポイント●いずれの小節でも、アクセントは次の小節の1拍目を“くう”形で先取りしたものになっています。このようにビートを“くって”アクセントの位置をずらす“アンティシペート”ビートは、演奏がハシリがちになるのでゆっくりと練習し、演奏中は常に体のバランスを保つようにしてください。バランスを失うことによって演奏がハシってしまうことがあります。

55

d : funk ensemble figure example 4

●ファンク・アンサンブル 音型4

主な目的●exercise20aと同様です。2小節からなるリズム・パターンで、2小節の3拍目・4拍目それぞれのアタマとその16分ウラにアクセントが付きます。

練習方法●exercise20aと同様です。

b : funk ensemble figure example 2

●ファンク・アンサンブル 音型2

主な目的●exercise20aと同様です。2小節単位のリズム・パターンで、1小節目の3拍ウラと4拍目の16分ウラにアクセントが付きます。

練習方法●exercise20aと同様です。

ポイント●“アンサンブル・キック”のないオープンな音型では特に“セットアップ”フレーズは必要ありません。またこのエクササイズのように“アンサンブル・キック”が立て続けにふたつある場合は、両方に“セットアップ”フレーズを入れるとうまくいかず乱雑になってしまいます。通常は単に音型のみを演奏するのがベストです。

ポイント●記譜されている2つの“アンサンブル・キック”は、状況によっては解釈が異なることもあります。例えば、演奏によってはどちらの“アンサンブル・キック”も実際よりは短くなったり長くなったり、または最初のもものが2番目のものよりも短くなったりします。譜面を読むのと同時に、その場の音楽を聴くことが重要です。音楽は科学ではないのですから、読譜も臨機応変に対応しましょう。

e : funk ensemble figure example 5

●ファンク・アンサンブル 音型5

主な目的●exercise20aと同様です。2小節単位のリズム・パターンで、1小節目の1拍目と、2拍目ウラ、そして2小節目の3拍目ウラにアクセントが付きます。

練習方法●exercise20aと同様です。

ポイント●この“アンサンブル・キック”は、音楽によって読譜自体があまり変わることはない例です。ジャズの音型と見られがちですが、ファンクやロックでもよく見られます。また、ジャズとファンクとでは“セットアップ”フレーズもかなり似てきます。いろいろな音楽での“セットアップ”を聴いてみましょう。同じ形を見つけることができるはずです。



20a  $\text{♩} = 80$

20b  $\text{♩} = 80$

20c  $\text{♩} = 88$

20d  $\text{♩} = 88$

20e  $\text{♩} = 104$

## exercise 21

### a : 8-bar funk example 1

● 8小節ファンク・エクササイズ1

主な目的● “アンサンブル・キック”を取り込んだ8小節のファンク・パターンに取り組みます。典型的なファンクにおけるアンサンブルの音型をうまく使いこなせるようになります。

練習方法●最初はゆっくりとしたテンポで練習します。ビートを演奏しながらアンサンブルの音型を口ずさんでみましょう。またはカウントをとりながらアンサンブルの音型を手で叩いてみましょう。全体を通して演奏する前に、1小節ごと、2小節ごと、4小節ごとに区切って練習してみると良いでしょう。

ポイント●ウラ拍の音型がたくさんあります。演奏がハシらないように気を付けてください。

### b : 8-bar funk example 2

● 8小節ファンク・エクササイズ2

主な目的●もうひとつ8小節のファンク・パターンに取り組みます。前のエクササイズよりも、もう少し音型が増えています。16分音符の音型に注意しましょう。

練習方法●exercise21aと同様です。

ポイント●前にも言いましたが、“アンサンブル・キック”が立て続けにある場合は、そのすべてに“セットアップ”フレーズを付けようとしなないように。アンサンブルの音型をきちんと演奏できることが重要なので、ここでは“セットアップ”の数を控え目にしましょう。

## 21a

## 21b

## exercise 21

## c : 8-bar shuffle example

- 8小節シャッフル・エクササイズ

主な目的 ● シャッフル・スタイルによる8小節のパターンに取り組みます。シャッフルでこのような音型をスムーズに演奏するのは意外と難しいものです。

練習方法 ● exercise 21aと同様です。

ポイント ● このようなスタイルでは、できるだけグルーブを重視し、“セットアップ”は最低限に抑えた方が良いでしょう。ここで使われている音型は、スウィング・フィールで扱われる音型と同じであることに気付かれたでしょうか。

## d : 8-bar funk ballad example

- 8小節ファンク・バラード・エクササイズ

主な目的 ● スローなファンク・バラードでのパターンに取り組みます。

練習方法 ● スロー・バラードですからゆっくりとしたテンポで練習します。区切りながら練習しても構いません。4小節ごとの最後に入るまばらなフィルによって、スローなバラード感覚を出すように、重点的に練習してください。それによってこうした音型は容易に演奏できるようになります。

ポイント ● リラックスしてゆっくりと演奏するという事は非常に難しいことですが、これができてこそ、こうしたアンサンブルの音型をマスターすることができます。

## 21c

## 21d

## exercise 21

## e : 8-bar funk shuffle or hip-hop example

- 8小節ファンク・シャッフルまたはヒップホップ・エクササイズ

主な目的 ● ヒップホップ・フィールのアンサンブルの音型による、8小節のパターンに取り組みます。

練習方法 ● ヒップ・ホップの感覚をつかむことから始めます。メトロノームでカウントを出し、2拍目と4拍目で手を叩きながら音型を口ずさんでみましょう。こうしたパターンを演奏するときは、グローヴからはずれることのないように注意してください。まずはバス・ドラムの上で音型をつかんでいってください。

ポイント ● “セットアップ”フレーズを入れると、ヒップホップとストレートなスウィング・ビートには共通点があることがわかります。両者の音型をよく見比べると、スウィングやジャズの“アンサンブル・キック”はヒップホップのものと非常に近いのです。

## f : 12-bar swing shuffle example

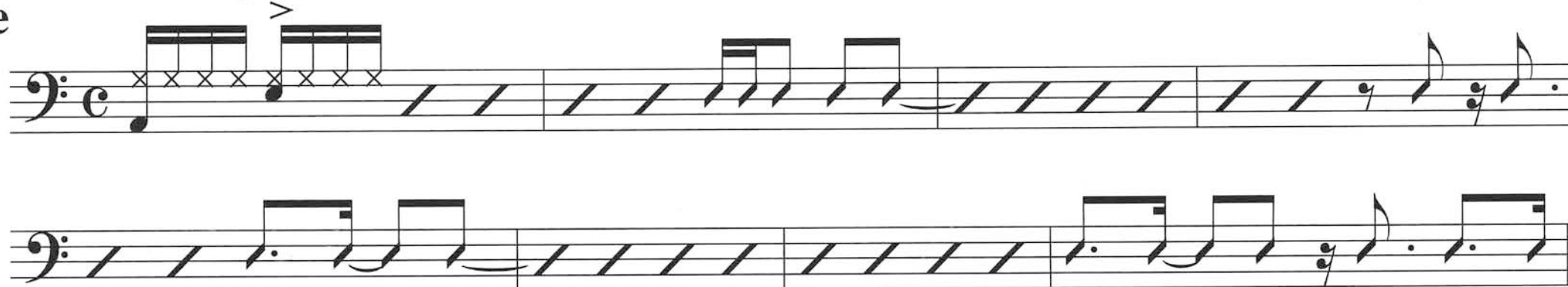
- 12小節スウィング・シャッフル・エクササイズ

主な目的 ● スウィング・スタイルのアンサンブルの音型による、12小節のブルースに取り組みます。

練習方法 ● 最初に12小節のフォームできちんとテンポが取れるように、その感覚に慣れてください。何曲かブルース・ナンバーのメロディを覚え、演奏しながらそのメロディを口ずさむようにしてみましょう。最初は4小節ごとに区切り、できるようになってから全体を通してみます。慣れてきたら1コーラスはテンポのみに集中し、次のコーラスはアンサンブルの音型を演奏するという繰り返しを行ってください。

ポイント ● ブルース・フォームの感覚をつかむことは、いかなるスタイルの音楽を演奏するにも重要なことです。12小節のブルース・ナンバーを数多く聴き、そこにあるアンサンブルの音型を書きとめておきましょう。メロディを口ずさみながらアンサンブルの音型を演奏してみましょう。

♩ = 80 (Swing 16ths)  
21e



21f



62

## exercise 22

- a : triplet example 1+2 (funk/rock beat)**  
●トリプレット・エクササイズ1+2(ファンク/ロック・ビート)
- b : triplet example 3+4 (funk/rock beat)**  
●トリプレット・エクササイズ3+4(ファンク/ロック・ビート)
- c : triplet example 5+6 (swing beat)**  
●トリプレット・エクササイズ5+6(スウィング・ビート)
- d : triplet example 7+8 (hip-hop beat)**  
●トリプレット・エクササイズ7+8(ヒップホップ・ビート)

主な目的●トリプレットのソロ・フレーズやフィルインが、一定のグルーブの中で演奏できるようにするためのエクササイズです。

練習方法●最初はゆっくりのテンポで練習します。それぞれのパターンは、4つか5つの異なるテンポで練習しましょう。次に練習するときは、また異なるテンポで練習します。何度も何度も同じ練習をすることは大事ですが、テンポを変えて練習することもとても大切です。慣れてきたら、4つのエクササイズで使ったパターンを混ぜて新しいアイデアを作り出してみましよう。ナチュラルなスティッキングを心がけ、ルーディメントは常に練習してください。そうした積み重ねが新しいアイデアを生み出すことになるのです。

ポイント●メトロノームを使いましょう。ソロ・フレーズでも、できる限りのグルーブ感を出しましょう。また、どのようなパターンを演奏していても、体の動きが自然でスムーズであることが重要です。

63



## 22a

♩=104

R L L R L L L L L L

R L R R L R L R L

## 22b

♩=104

R R L R R L L R R L

R L L R L R L R L

## 22c

♩=200

R R L L R L R L R L

R L R L L R L L R L R L L R L R L R L L

## 22d

♩=92

R L L R L R L R L L R L R L R L L R R L

R L R L R L R L R L R L R L R L R L

# exercise 23

**a : 16th and 32nd note example 1 (SD/FT/BD)**

● 16 & 32 分音符エクササイズ1 (スネア・ドラム / フロア・タム / バス・ドラム)

**b : 16th and 32nd note example 2 (SD/TT/FT/BD)**

● 16 & 32 分音符エクササイズ2 (スネア・ドラム / タムタム / フロア・タム / バス・ドラム)

**c : 16th and 32nd note example 3 (CYM + BD together)**

● 16 & 32 分音符エクササイズ3 (シンバル + バス・ドラム)

**d : extended 16th and 32nd note example**

● 16 & 32 分音符エクササイズ4 (エクステンド)

主な目的 ● 16分音符と32分音符によるデュプレット(2連符)のソロ・フレーズやフィルインが、一定のグルーブの中で演奏できるようにするためのエクササイズです。

練習方法 ● exercise22と同様、テンポをできるだけ変えて練習しましょう。どのエクササイズも16分音符と32分音符のパターンが含まれていますが、まずは16分音符のパターンから先に練習してください。どちらのパターンにも慣れてきたら、一定のグルーブの上で続けて練習します。最終的には、例えばexercise23bの16分音符のパターンと23dの32分音符のパターンというように、4つのエクササイズで使ったパターンを混ぜて練習してみましょう。絶えず新しいアイデアを

作り出す努力をしてください。

ポイント ● フレーズを理解するためには、まず16分音符のパターンを使って練習することが重要です。16分音符のパターンが演奏できなければ32分音符のパターンを演奏することはできません。自分のパターンを作っている時には、スティッキングや体の動きに注意して、ぎこちない動きにならないようにしましょう。

## 23a

Tempo: ♩ = 84

Staff 1: 16th notes (x), 32nd notes (x), 32nd notes (x), 32nd notes (x), 32nd notes (x), 32nd notes (x), 32nd notes (x), 32nd notes (x). Stick patterns: R L L, R L R L L, R L R L L.

Staff 2: 16th notes (x), 32nd notes (x), 32nd notes (x), 32nd notes (x), 32nd notes (x), 32nd notes (x), 32nd notes (x), 32nd notes (x). Stick patterns: R L L, R L R L L, R L R L L.

## 23b

Tempo: ♩ = 84

Staff 1: 16th notes (x), 32nd notes (x), 32nd notes (x), 32nd notes (x), 32nd notes (x), 32nd notes (x), 32nd notes (x), 32nd notes (x). Stick patterns: R L R R L R, R L L, R L.

Staff 2: 16th notes (x), 32nd notes (x), 32nd notes (x), 32nd notes (x), 32nd notes (x), 32nd notes (x), 32nd notes (x), 32nd notes (x). Stick patterns: R L R R L R, R L L, R L.

### 23c

$\text{♩} = 84$

R L R L R R L R L L R R L R L L

R L R L R R L R L L R R L R L L

### 23d

$\text{♩} = 84$

RLRL RR RLRL RR RLRL RR RL

RLRL RR RLRL RR RLRL RR RL



---

## デモ演奏について

---

### demonstration 1

---

最初のデモンストレーションは2つのパートからできています。前半はドラムのみの演奏です。私は完全なフリーの演奏はあまりせず、テンポをキープすることを心掛けています。また、私は好んで様々なダイナミクスを付けます。そうすることで、サウンドが生き生きとなり表現豊かになります。後半はベーシストのアンソニー・ヴィッティが参加し、粘りのある感じのグルーヴを演奏しています。こうしたグルーヴに関しては、ジェフ・ポーカロの演奏をよく聴いてきました。ちなみに彼はこうしたグルーヴを「ジャズ・シャッフル」と呼んでいました。ハイハットにジャズのライド・パターンが聴かれるからです。

---

### demonstration 2

---

このデモンストレーションは、基本的に70年代のディープなファンク・グルーヴになっています。トモ藤田もギターで参加しています。こういったノリのリズムは、リズム・セクションがしっかり演奏していると一日中でも演奏できてしまいます。すべてのパートが、目指しているサウンドを生み出すために一緒にグルーヴしています。最後に短いソロを演奏していますが、それもグルーヴに根ざしたものに終始しています。ここでは意図的にロールや32分音符は演奏しませんでした。常にシンプルに、音楽的な演奏をキープし続けています。皆さんも是非試してみてください。

---

### demonstration 3

---

3つ目のデモンストレーションは、ハーフ・タイム・シャッフルで始まっています。その後、8分の6拍子で現代的なベンベ風パターンを演奏しています。ここでは、いかに多くのグルーヴがリズム的に関連し合っているかが理解できるように演奏しました。アイデアを他の音楽スタイルに生かすこともできれば、さらに新しいアイデアが浮かんでくることもあるのです。最後には、ベースのアンソニー・ヴィッティが4小節単位の(カウントの仕方によっては2小節単位とも言えます)リズミックなフレーズを演奏している時にドラム・ソロがあります。バンドがアンサンブルのフレーズを演奏している時に、バンドの演奏をしっかりとキープしながらクリエイティブなソロを取るのはとても難しいことです。

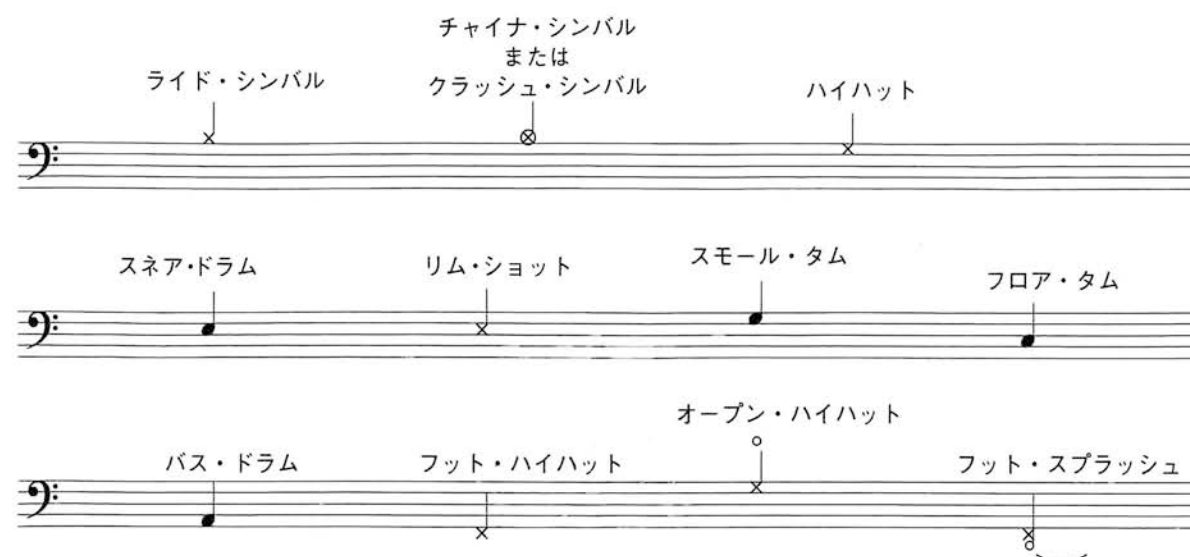
## demonstration 4

ここではトモ藤田の「Confidence Cat」という曲を演奏しています。この曲はアップ・テンポで音数の多い曲です。こういった曲では演奏し過ぎないように、つまり音数が多すぎないように心掛けています。最後に、バンドで難しいアクセントを演奏している時に私がソロを取っています。バンドとしての演奏をキープしつつ、クリエイティブなソロを取らなければならないわけです。こういった状況では、私はたいていシンプルなソロでスタートし、自然に発展させていきます。そして、重要なことはグルーブし続けるということです。

## おわりに

本ビデオのエクササイズでは様々なレベルの様々なスタイルを取り上げました。優れたドラマーは、難易度に関係なくドラムに関するあらゆることに注意を払っています。何事も進歩させるのは容易なことではありません。また、優れたドラマーはスタイルに関してよりも、すべてをドラミングとして、またいかに演奏を仕上げるかについて考えています。多くのドラマーは、その技術の中に盲点があります。つまり演奏スタイルに固執して、それに則したアプローチやパターンしか考えつかないからです。まずは楽器自体をもっとよく知ってください。また多くのドラマーは、実用的でいかなる状況にも対応できるようなパターンを学ぶことには集中せず、斬新で珍しいグルーブやパターンを求めがちです。ですから、このビデオではあくまでも、様々な音楽に役立つパターンに集中しました。こうした典型的なドラムのボキャブラリーを何回も何回も繰り返し練習していけば、しっかりしたドラマーとなり、クリエイティブで面白いアイデアをさらに生み出していくことができるはずです。それこそがまさに音楽の楽しさであり、それがあからこそ我々は音楽を演奏をし続けるのです。

## 譜面の見方



## プロフィール

1989年よりバークリー音楽院にて教鞭を執る。

ロック、ジャズ、ファンク、R&B、ブルース、ラテン、アフリカン、フォーク、カントリー、ポップス等あらゆるジャンルに精通し、現在は教授として同校ドラム／パーカッション部門では、最も多忙で人気の高い教師の一人となっている。

世界各国で様々な演奏活動やレコーディング・セッションも行なっており、ミュージカル『Rent』での演奏や、タイガー大越、ポーラ・コール、ウォーレン・ヒル、ジョナサン・ブルック、ジェームス・モンゴメリー、スティーヴ・フォーバート、マーサ・リーヴス、メラニー、ヴィニー・ムーア、ジミー・アール、ザ・カーリッジ・ブラザーズらとの共演、スティーヴ・スミス、トミー・キャンベル、ジェリー・ブラウン等のドラマーとの共演もある。

1stアルバム『The Dig』はベーシストのアンソニー・ヴィッティと共演した作品。その他に著書もあり、ドラム・クリニックも行なっている。

## ラリー・フィン・ホームページ

<http://larryfinn.com>

Larry Finn endorses Zildjian cymbals and Vic Firth drum sticks

演奏能力開発エクササイズ2

『ドラマーのための演奏能力開発エクササイズ2』解説書

■採譜・解説／ラリー・フィン

■翻訳／ミカ・ゴーインズ

■浄書／山岡 博

■DTP／波多江潤子

■企画制作／株式会社リットーミュージック

※無断複製・転載を禁ずる

VW-213